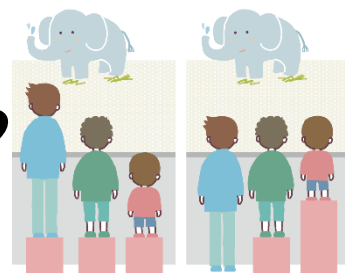


津島分校人権だより

津島分校人権委員会

ひゅーまんらいつ



～第2回人権・同和教育ホームルーム活動報告～

先月、9月22日に第2回目の人権・同和教育ホームルーム活動が各クラスにおいて実施されました。
各クラスの取組を紹介します。

<1年生> 主題『 私たちと人権問題Ⅰ 一障がい者問題を考えるー 』

【1組の皆さんの感想】

- ・自分から見れば無意識にみている普通の光景は、障がいのある方から見ると普通のことでないと改めて感じた。
- ・障がいを持っているから差別しようとするのではなく、まずは話してみても関係を深められたらよい。

【2組の皆さんの感想】

- ・お互いのことを理解して、助け合い協力しあうことの大切さを感じた。
- ・障がいを持っているから差別(除外)しようとするのではなく、まずは話してみても関係を深められたらよい。



<2年生> 主題『 人権の歴史に学ぶⅡ ー「解放令」出るー 』

【皆さんの感想】

- ・解放令を出したのに差別が続いたことに、疑問を感じました。プライドが高い人がいるだけで悲しい思いをした人がたくさんいると感じました。
- ・これまで長く続いてきた習慣が外からの刺激により、変わろうとしたのは大きな進歩だと思った。



<3年生> 主題『 人権問題を解決するためにⅡ ー身元調査をなくそうー 』



【皆さんの感想】

- ・就職や結婚において、親のこと、国籍などは全く関係ないのに、今でも差別があるのは許されないことだと思った。
- ・差別をなくすためには「誰かがやってくれる」より、まず「自分自身」が行動すべきだと改めて思った。

～共生社会って??～

書道家 金澤翔子（かなざわしょうこ）さん

- 1985 年、東京生まれ。生後間もなくダウン症と診断。
- 5歳から母の師事で書をはじめる。20 歳で初めての個展。その後、法隆寺、東大寺、厳島神社等で、個展や奉納揮毫。2015 年、ニューヨークで初の海外個展を開催。
- 2015 年、愛媛県立美術館でも個展。
- 30 歳になり、一人暮らしをはじめる。



＜母、泰子さんのインタビューより＞ 出典：HP SOAR「ダウン症のある娘がはじめた一人暮らし」より

いざ部屋を見つけて暮らし始めても、お金のやりくりなど一人ではできないこともある翔子さんに対して、「1 週間で実家に帰ってくるのではないか」と思ったそうです。「ゴミの出し方も、翔子のマンションの隣の人が教えてくれたんです。ゴミの分別方法まで教えてくれて、今、翔子はゴミ出しも完璧に出来るようになってる。買い物で出すお札がわからないときも、店員さんが教えてくれるんです。人は助けてくれるし、困っている人がいるとそこにコミュニティが出来ていく。ものすごく素晴らしいですよ。障害がある人とそうでない人が助け合っていて、これがダイバーシティっていうのかな」

一人暮らしを始めて地域のつながりの中に暮らす翔子さんの様子を見て、泰子さんの心境は徐々に変化していきました。「人に迷惑をかけないように、一人で生きられるように」という気持ちが和らぎ、地域のつながりを信じてみようと思えるようになっていったのです。「翔子が街によく溶け込んでいるのを見て、みなさんの優しさをすごく感じました。ああ人間ってすごいんだ、地域のつながりって大事だなと。街は共生社会で複数の人たちがいるから、この人がだめならあの人、というふうに頼ることができる。世代交代を経て、代々つながっていく関係性もあるんですよ。」

翔子さんが現在築いている「自立」の形は、「地域の人に支えられ、助けてもらいながら生きること」。一人で完結するものではありません。人はいつも 100%元気でいられるわけではないし、一人ですべてのことをうまくやれるわけではありません。障害の有無によらず、「自立」とは「誰にも頼らず一人で生きていく」ことではなく「頼れる先を増やして、周囲に支えられて生きること」なのだと思います。とはいえ、「人に頼れない、迷惑をかけてはいけない」という考えがもともとある人にとって、それを改めるのは容易なことではないでしょう。「自立」への第一歩はまず、「人に頼っても迷惑をかけても、大丈夫だった。支えてもらえた」という体験をすること。そして、そう思える環境や居場所が必ずあると信じて、探していくことなのかもしれません。

翔子さんの生き方からどんなことを感じましたか？

あなたの考える「共生社会」「自立」とはどのようなものですか??感想を書きましょう！

＜今日の感想＞ （ ）年（ ）組（ ）番 氏名（ ）
